時事新報

明治十八年二月十二日 木曜日

驛遞局認可

第八百九十號

日曜日休刊

社告

○時事新報豫約御購讀被成下候ニ付テハ新報代價並ニ郵便税ハ必ズ前金ヲ以テ御拂入被成下度候又前金相切レ候ヘハ其日限リ新報ノ發送相見合セ候

○新報代價並ニ郵便税トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度書面ヲ以テ御返知ハ不申上其代リニ毎日御遞送申上候新報ノ帶封表面御名前ノ脇ニ(何月何日)ト記入仕置候間御覽可被成下候尤モ此日マデノ新報代價並ニ郵便税トモ御拂濟相成居ルニ付此日マデハ新報遞送仕候ト申ス事ニ候

○郵便爲替又ハ銀行爲換等ヲ以テ時事新報代價御拂入レ被成下候節當方ノ名宛ハ(時事新報社)ト致シ郵便爲換ナレバ(東京郵便本局)ニテ受取ルベキ樣御取組被成下度候

○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下候儀御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便税共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候テ苦シカラズ候

○時事新報豫約購讀ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新報配達先キ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所番ヲ併テ御通知被成下度候

時事新報定價 (日曜日バカリ休刊)

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○東京十五區內並ニ横濱區內ニ限リ配達賃○前記東京横濱ヲ除クノ外日本國內並ニ海外郵便條約國(歐洲諸國等)ヘ御遞送ノ郵便税ハ一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢ノ割ヲ以テ前金ニテ申請候事

前金拂廣告料定則 一行二十四字迄

一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金八錢、十一行ヨリ三十行迄一行ニ付一日分金七錢、三十一行ヨリ五十行迄一行ニ付一日分金六錢五厘、五十一行以上何行ニテモ一行ニ付一日分金六錢、但シ六日間以上掲載ノ分ハ定則一割引十五日間以上同斷同一割五歩引、三十日間以上同斷、同二割引

時事新報

日本ヲ知ラザルノ罪ナリ

國交際ノ事ハ盛衰相半スルモノナリト云フト雖ドモ是レハ唯外交官ノ方寸ニ存スル働ニシテ時ニ應ジ構ヘテ實ヲ掩ヒ自家ノ利害ヲ保護スルコモアル可シ誠ニ驚クニ足ラズ又咎ルニモ足ラザルコナレドモ爰ニ外交ノ要トシテ最モ缺ク可ラザル所ノモノハ敵國ニテモ友國ニテモ先方ノ實ヲ明ニスルノ一事ナリ苟モ其實ヲ知ラザル時ハ敵ス可ラザルモノニ敵シ、友トス可ラザルモノニ交ハリ、其弊ハ意外千萬ナル變ニ逢ヒ謂レモナキコニ友國ノ親ミヲ失フテ殊更ニ敵國ヲ造リ出スノ不幸ニ陷ル、コアリ本來事ノ間違ヒノ上ニ跨リテ交際ヲ遂ゲントスルモノナレバ間違ヒヨリ間違ヒニ移リテ際限アル可ラズ國交際ノ最モ拙ナルモノト云フ可シ此事情ハ年來日支韓三國ノ交際上ニ現ハレテ常ニ三國ノ不幸ヲ致スモノナレバ我輩ハ今其事情ノ最モ著シキモノヲ說イテ當局者ノ迷夢ヲ拂ヒ以テ三國ノ幸福ヲ全ウセンコヲ謀ル者ナリ抑モ我日本國ガ朝鮮國ト交ヲ開キタルハ今ノ文明世界ニ咫尺ノ隣國、之ト通信シ之ト貿易シテ共ニ文明ノ徳澤ヲ被ラントスルモノヨリ外ナラズ昔年兵馬侵略ノ時代ナラバ或ハ入寇ヲ蹂躙シテ版圖ヲ拓クノ考モアル可シ又我國力ヨク此事ヲ成スニ足ル可キハ我レモ信ジ人モ許ス所ナリト雖ドモ策ノ此ニ出デザルハ文明親睦ノ利益ハ兵馬戰勝ノ愉快ヨリモ大ナルヲ知レバナリ是即チ日本國ガ最初ヨリ大朝鮮國ノ獨立ヲ認メテ對等ノ條約ヲ結ビタル由縁ナリ既ニ之ヲ獨立視シ對等視スルカラニハ我政府ハ無論人民一般雖レ一人トシテ朝鮮ニ對シテ政治上ニ異志ヲ挾ムモノアルコナシ是亦世界中ニ明白ナル事實ナリ然ルニ朝鮮人ハ其開國以來モ兎角固陋ノ風ヲ脫スル能ハズシテ新ニ交ハル日本人ノ擧動ヲ悦ハズ甚シキハ邈乎タル豐太閤ノ昔ヲ思ヒ出シテ日本ヲ怨ムナド迂濶至極ノ人情ニシテ遂ニ明治十五年ノ夏大院君ノ亂ナルモノヲ引起シテ日本人ニ寇シタルコアリ是レモ不幸トハ申シナガラ開國匆々ニ左マデ疑ク可キコニ非ズトテ日本國ニテハ尙寬大ノ旨ヲ忘レズ平穩ニ事ヲ處セントスル其最中ニ支那ヨリ軍艦兵士ヲ朝鮮ニ派出シテ大院君ヲ執ヘテ歸リ尙其後モ朝鮮京城ニ大兵ヲ駐在セシムル等何カ大ニ備ル所ノモノアルガ如シ元來コノ亂ハ朝鮮ノ群民雜兵共ガ大院君ノ教唆ニ乘シテ韓廷ノ戚臣ヲ倒シ其幸便ニ日本公使ヲモ犯シタルコニシテ日本政府ハ朝鮮政府ヲ責メテ至當ノ賠償ヲ爲サシメ尙其民情ヲ察スレバ或ハ再犯モ計リ難キガ故ニ公使館自衛ノタメニ少數ノ兵ヲ公館ノ傍ニ留キタルマデナルニ支那政府ガ差シタル要用モナクシテ態ト兵ヲ備ルトハ不審ニ堪ヘザル次第ナリ朝鮮人ガ支那人ニ向テ寇シタルコモナク又寇ス可キ樣子モ見ニズ自衛ノ兵ナドヲ要セザルハ誠ニ明白ナル勢ニモ拘ハラズ大ニ兵力ニ恐訛スルハ我輩ノ推察ヲ以テスレバ是レハ支那人ガ兵威ヲ以テ朝鮮ノ內政ニ手ヲ出シ又一ニハ暗々裡ニ日本ノ兵ニ備ルノ深意ナリト斷定セザルヲ得ズ是即チ間違ヒノ發端ニシテ支那人ガ一度ビ此間違ヒノ上ニ跨リテ其心ノ迷ヲ拂フコ能ハザル其間ハ間違ヒヨリ間違ヒヲ生ジテ遂ニ際限アル可ラズ左レバニヤ大院君ノ亂後支那人ハ朝鮮ノ內治ニ干涉スルコ甚シク韓廷ニ支那ノ官吏ヲ派出シ、雇ヒノ人物ヲ紹介シ、兵士ヲ支那風ニ訓練スル等樣々ノ手段ヲ施シテ陰ニ其朝野ノ間ニ威嚇ヲ行ヒ純然タル屬邦ノ實ヲ養成セントシテ勉ルモノ、如シ其擧動ノ怪シム可キハ我輩ノ久シク注目スル所ニシテ我日本國ハ公平無私ニ認メ獨立視スル其一王國ヲ支那ハ全体何モノナレバ無遠慮ニモ之ヲ己ガ屬邦ナド唱フルヤト我輩ノ心中竊ニ不平ナキヲ得ズ尙其上ニモ最モ不平ト申スハ支那人ガ斯ク兵ヲ備ヘ又內治ニ干涉スルニ付キ常ニ口實トスル所ハ朝鮮ノ國邊ノ爲ヲ謀リテ日本ハ誠ニ恐ル可シ、日本人ノ野心猿貪飽クヲ知ラズ、朝鮮ヲ亡ボスモノハ夫レ日本ナラン、然リト雖ドモ幸ニシテ汝朝鮮ノ宗國ニハ中華ノ在ルアリ中華ノ土地人口日本ニ十倍シ富源兵士亦コレニ十倍ス中華ノ富強ヲ以テ日本ニ臨ムハ千鈞ヲ以テ一卵ヲ壓スルガ如シ汝朝鮮ノ臣子コレヲ安ンゼヨ云々トテ一ハ徳ヲ施シ一ハ威ヲ示シテ朝鮮人ヲ籠絡スルノ策ヲ運ラスハ一朝一夕ノ事ニ非ズ是レハ我輩ガ風說ノ傳聞ナド申ス漠然タルモノニ非ズ現ニ清廷ノ大臣ヨリ朝鮮ニ贈リタル書モアリ又在朝鮮ノ支那人等ハ朝夕口外スル所ニシテ決シテ珍話ニモ非ズ又秘密ニモ非ザルナリ依テ竊ニ案スルニ支那人ガ斯クモ朝鮮ノ事ヲ心配シテ日本ノ事マデモ夫レ是レト評論シ野心猿貪ナド云フハ唯朝鮮人ノ好意ヲ買ハントスルタメニ殊更ニ虛ヲ構ヘテ漫語スルモノカト思ヘドモ又一歩ヲ退ケテ再思スレバ支那人ハ實ニ日本國人ノ心術ヲ疑ヒ日本人ハ眞實ニ道略ヲ事トシテ理非ノ辨別モナク其氣向キ次第ニテ今日ニモ鷄林ノ八道ヲ蹂躙シテ滿洲ヲ席卷シ北京ヲモ覆ヘスコアラント怯心暗鬼ヲ生スル者ニハ非ズヤト疑ハザルヲ得ズ去リトテハ支那人ハ他國ニ交際スルニ其先方ノ事實ヲ知ラザルモノナリ今ノ我日本人ハ唯兵ヲ是レ嗜シム者ニ非ズ、無名ノ戰ヲ戰フ者ニ非ズ、事ナケレバ斷シテ戰ハズ、名ト理トアレバ則チ大ニ戰フ者ナリ、故ニ支那人ノ爲ニ謀ルニ若シモ日本人ガ遠略ニ志スコモアランカト恐ルヽナラバ速ニ在朝鮮ノ支那兵隊ヲ引揚ゲ速ニ朝鮮內治ノ干涉ヲ思止マルニ若カズ日本人ノ今日沈着シテ動カザルハ朝鮮人ヲ憚ルガタメニ非ズ、支那兵ヲ恐ルヽガタメニ非ズ、別ニ所見アルモノナリ、我日本ハ尙武ノ國ナリ先方ヨリ所望トアレバ敢テ辭セズ唯今ニモ御相手罷リ成ル可キナレドモ輕擧ハ武人ノ本色ニ非ズ名義ト道理ハ日本武士ノ最モ重ンズル所ニシテ名理ノ範圍內ニハ處女ノ如クナルモ他ヨリ來テ此範圍ヲ破ル者アレバ我レ亦コレヲ脫シテ脫兎ノ如クナル可シ八道ノ蹂躙滿洲ノ席卷モ其無キヲ期ス可ラザルナリ此レヲ是レ知ラズシテ支那ガ兵力ヲ裝ヒ朝鮮ノ保護ヲ名トシテ陰ニ日本ニ備ヘ徹頭徹尾其非ヲ遂ゲントスルガ如キハ暗鬼ヲ變シテ實ノ鬼タラシムルモノニ異ナラズ支那ノタメヲ謀リテ不利ノ大ナルモノナラズヤ試ニ思ヘ今ノ佛清ノ葛藤ハ何ニ原因シタルモノナルヤ唯安南ノ屬邦論ニ外ナラズ安南ハ支那ノ手ヲ引テ佛蘭西ニ奪ハル、ノ恐アルモ日本ハ朝鮮ヲ奪フ者ニ非ズ何モノニ苦勞シテ朝鮮屬邦ノ虛名ニ戀々スルヤ我輩ノ解スル能ハザル所ノモノナリ畢竟支那人ガ日本ノ實情ヲ知ラザルノ罪ニシテ日支韓三國ノ交際ヲ擾亂スルモノト云ハザルヲ得ズ故ニ支那政府ニシテ若シモ東洋ノ平靜ヲ重ンズルノ念アラバ今度朝鮮ノ變亂ニ就キ我レニ謝ス可キ罪ヲ謝シテ同時ニ京城ノ兵ヲ引揚ルハ彼レ自家ノ得策ナラント信ズ斯クアリテコソ我輩モ始メテ流石ニ大國ナリノ評ヲ呈セントスル者ナリ

雜報

○御親祭 前號に記し奉りたる如く昨十一日は紀元節あるを以て聖上には午前九時神殿に出御在らせ給ひ御親祭を執行遊はされ夫より皇后宮の御參拜畢りて夫々參拜を仰付られたり

○松方大藏卿 同卿には來月上旬に大坂へ赴きて造幣局と巡視するよし

○兼任の噂 今の程大山陸軍卿と共に歸朝せし野津同少將は大輔を兼任するとの噂あり

○府知事の夜會 屢々紙上に記載せし芳川府知事の鹿島館に於て開くべき夜會は愈來る十六日と定めたる由

○歸朝祝宴 明後十四日午後六時より名倉、田代の兩陸軍々醫正が幹事にてこれ程大山陸軍卿に隨從して歸朝せし橋本軍醫監を遊巖館に招請して祝宴を開き石黑軍醫監其他各軍醫數十名參集するといふ

●

○鈴木少佐 目下山梨縣下巡回中なる東京鎭臺後備軍副司令官鈴木少佐は同縣より靜岡縣を巡廻して歸京す

る旨其筋へ申越したる

○文部省 同省に於て

止し更に六局と置きま

に記載せしが舊專門學

館盲啞院等に係る事務

一局へ引繼き舊營繕局

撿査に係る事務は編輯

繼き舊庶務局に於て取

は報告局に其他の事務

褒賞の三課に於て取扱

掛に於て取扱ひし事務

○戶籍條例 擬て其筋

みて其編纂を終り近々

旬迄には發布なるべし

○近衞兵 同步兵隊は

に編制ありしが今度同

從ひ八大隊を增加して

して一師團に充るの見

○師國本部 陸軍省に

師團に編制するに付

築の筈なりと

○致導團營所 目下

所は步兵の分は粗落

築する筈にて淺草團

る筈なりと

○製鐵會社見分 京

社は器械準備の整頓

日出張して見分あ

○清兵敗北 去月十

報に載する所と見る

を交へ清兵大敗、器

砲十二門も佛軍の爲

○台灣の封鎖 台灣

揭載せしが今近着の

年十二月十四日頃よ

あまり困難なるざり

日以後鷄籠より大

を英國の商人に通知

直に之に向て發砲す

きよしなり

○佛船堅固なるず

ルベー氏の其率ひる

ざる趣と本國なる海

電報と以て各兵船

と加へその水兵を移

補ふべしと返答せし

○淡水攻擊の延引

の頃と期して海陸

する由は先日の紙上

十日の香港新聞と見

淡水の攻擊は日延

那形艦並に小形艀船

に乘合る支那人を